



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2009/10/11(日)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 59

新潟国体に参加して思うこと

北海道成年女子監督 幸丸政実

「新潟国体に行ってきました」

最近の国体は質素になってきました。一昔前とは違い、財政難と相まって街の沿道に小旗の乱立や歓迎の垂れ幕などはほとんど見られません。選手も靴やブレザーまでもらって駅のホームには国体の制服を着た選手団がどこの県の選手かを色分けしていましたが、いまではカジュアルな服装や自分達の所属するチームジャージなどで往来しているため、空港などの華やかさが見られなくなりました。

宿泊に関しても、出来ることならホテルか青年の家などを利用し、個人の家にお世話になる面倒さを省くシステムを行政側が好むようになり、よほどのことがない限り民宿は姿を消しつつあります。

さて、10月2日新潟市体育館で成年女子1回戦、北海道と宮崎県の試合があり、私はそのベンチにいました。成年女子は今年都道府県対抗のサイクルに当たっていて、47チーム参加のトーナメントでした。

わが、北海道チームは東京の学生3人、(大鷹さおり筑波大4年、福士佳恵筑波大3年、三浦春日玉川大2年)と長内ほのか札大2年の4人を補強し、アカシヤクラブ7名の合計11名で戦いました。札幌選抜を選ぶに当たっては札幌地区が開催する会長杯予選のベスト4のチームにもお願いしたところですが、札大以外の協力が得られずアカシヤ主体のチームで臨むことになりました。チームの作り方については後ほど述べたいと思いますが、まずは1回戦の戦いの後を振り返ってみたいと思います。

「ボールの選択がおかしい」

私はわがチームの試合が行われる前まで、ギャラリーで他チームの試合を見ていておかしいことに気がつきました。国体の成年女子は12面体のボールを使うことになっていて、千葉VS岡山戦では1Qミカサ2Qモルテン3・4Qモルテンとバラバラな使い方をしていました。

私はゲームが始まる直前、審判に「ボールの選択はどうなっているのですか。前のゲームではバラバラだったけど?」と聞きました。審判は「さっきのゲームでの使い方は良くないと思うので、開始直前に審判が1ゲームを通して使用するメーカーのボールを

決めます。」と答えました。その直後「ミカサに決まりました。」と言ってきました。ほとんどの選手がミカサを使ったことがないので不安が残りました。こんなことで良いものかとルールの決め方に疑問が残りました。

「前半思いがけない30点リードに油断」

宮崎県のチームも我々同様学生とクラブの合同チームでした。筑波大1名、福岡教育大1名、鹿屋体育大3名に加えて2つのクラブチームから6名で構成されスタートは学生2名クラブ3名の布陣でした。北海道は補強した学生4名と日体大を卒業したばかりの高橋のぞみ選手（アカシヤ）の若手5名でスタート。宮崎には小柄ながらクイックネスのある⑥早田選手（156cm）がいてかき回されそうになりましたが、インサイドを固めてしのぎ、攻撃面では本州でも名前の知れ渡っている大鷹選手のガードがきつい分、三浦選手、長内選手がシューターとしての役目をきっちりこなし、またタイミングよく恩田選手をインサイドで使ったことが功を奏し前半56対26の大量リードで折り返すことができました。

「ギャンブルショットに苦しめられた後半」

宮崎県は後半反撃に転じ、それまでオーソドックスなバスケットボールを展開していたことから脱却しゲリラ戦法とも言うべき戦いを挑んできました。デフェンスにおいてはオールコートプレスをしかけ、ドリブルに対して必死のラウンドジャンプやヘッジトラップを試み、北海道チームのわか構成のプレスダウンのまずさを突いてきました。

一度も合同練習をしていない弱点が現れ、個人技では攻めることができない状況に追い込まれました。つなぎのうまいアカシヤの選手を入れてどうやらプレスダウンには成功しましたが、相手は攻撃面でも必死でした。前半3本しか決めていなかった3ポイントシュートを後半だけで13本も決められました。

どうして打たせるのかと疑問に思うでしょうが、本来打つはずのない3点ラインから3メートル以上離れた場所からのシュートで、われわれは落ちるだろうと思っていましたが奇跡的に連続して入り、会場やベンチからは歓声が上がリ相手を乗せてしまいました。特に4Qは相手が連続5本の3ポイントを決め一時は6点差に詰め寄られました。長内選手の3ポイントが2本決まり大鷹選手も意地の3ポイントを決めて残り時間2分を迎えました。10点前後のリードがあればこちらはディレイドゲームに持ち込めば良いと思っていた矢先相手がタイムアウトを取ってくれたので、4コーナーオフENSEの指示とファールゲームに来るからフリースローを入れるように暗示しておきました。

案の定相手はファールゲームの作戦でしたが、フリースローを着実に決めて優勢のうちに終了。まずは目標の1勝を果たしました。

「2回戦兵庫県との対戦」

兵庫県は武庫川大学の学生中心のチームで、そこに昨年までWJBLで活躍していた榊原紀子選手（トヨタ）がキャプテンとして君臨しているチームでした。榊原選手の怖さを十分知っている東京の学生たちの顔が曇っていました。また、武庫川大は関西で頭

角を現してきた大学でここ数年インカレベスト8を何度も経験するチーム。まともに戦ったのでは勝ち目はないと思い、前半はルーズ・ゾーンを敷いて相手の手の内を探る作戦に出ました。大鷹選手の実力は相手チームにも十分知れ渡っているため、彼女へのデフェンスは相当きつくボールをもらうのがやっとの状態でしたが、その分他の学生3人が活躍する場が増えました。兵庫はゾーンの攻略に梶子摺ってくれて、1Qは同点で2Qを迎えました。

北海道のゾーンも次第に相手に慣れられ、榊原選手の冷静な指示でゾーンの裏からの合わせにやられるケースが多くなり2Qは10点差をつけられ終了。

3Q以降はマンツーマンに切り替えプレッシャーをかけるデフェンスにしましたが、相手は想像していた通りスクリーンプレーがうまく点差を広げられました。大鷹選手のドライブインに対するインサイドのデフェンスがきつく、その分長内選手の3ポイントが打ちやすくなり一時は4点差まで詰め寄りましたが、こちらがシュートを落としている間に相手チームのシュートが入りじりじりと点差が広がり、追い上げの早打ちシュートもゴールに嫌われ負けパターンの展開になりました。

武庫川大の組織力のあるデフェンスと榊原選手のリードに一日の長があり北海道は無念の涙をのみました。

「優勝は山形県（山形銀行）」

ここで国体の参加について考えてみたいと思います。成年は実業団がチーム丸ごと出て良いことになっていますので北海道の男子も宮田自動車は単独参加しています。近年大学生も人数制限が外されたため、大学単独で参加も可能になりました。北海道も勝つために選手を送り出すのなら大学のインカレ予選を国体期間中停止にすべきです。

本州の大学は古里選手として送り出すか、大学単独、あるいは2大学合同チームなどで国体に参加しています。大学生や実業団の選手であれば練習もクラブチームのように少なくないはずです。クラブチームより強いチームが作れるはずなのです。北海道のインカレ予選の期間を考慮することができないものなのでしょうか。

それにもう一つ問題があるのは、札幌に限っていえばシーズン早々の会長杯で国体の予選に出るチームを選抜すると言うことが挙げられます。大学は新人に代替わりして力が付いていない時期に大会があるのでクラブチームにも負けてしまうことが多い。しかし相対的に見て大学生のほうが10月には使えるようになっていると思います。

現在の北海道（札幌）における国体選手の選抜方法では、成年女子に限って言うならば絶対強いチームは作ることができないと言うことです。たとえば私はアカシヤクラブを指導していますが、春の会長杯に優勝して国体札幌選抜の選考権利を得たとします、北海道が勝つためにはアカシヤクラブの選手は一人か二人で十分です。（極端なことを言えば一人もいない）他チームの選手や道外の学生や実業団の選手でチームを作るほうが強いチームができます。しかし会長杯で・・・と言うことになれば、優勝したアカシヤの選手たちが一人も選ばれなければ「私たち何のために頑張ったんだろ言うね。」と言うことになります。

だから今までどこのチームの監督さんも国体で勝つことを目的にチームを編成できず、予選に勝った権利で自分のチームを主体に参加することが常識になっていたのではないのでしょうか。私はしばらく国体から離れていましたがいつまでたってもこのシステ

ムが変わらないので、あえて実態を把握すべく再度監督を試してみました。その結果、強いチームを編成するには今の方法では絶対不可能だということを再認識しました。

本当の私の願いは初めから北海道選抜を作るべきです。できなければ札幌選抜を作って道予選をやってその後北海道選抜を作るべきです。だれが「ネコの首に鈴をつける」のでしょうか。誰かが引き受けて苦勞しなければ結果はでないものなのですが、強化委員会あたりが考えてくれるのが常道と思います。

「そんなにまじめに気張らなくてもいいんじゃない？国体は楽しむために行けば？」という雰囲気蔓延しているのであれば私の提案はひっこめます。ジュニア連盟の全国オールスター大会の実績でもわかるように北海道選抜でみんなが協力する体制が構築されれば結果は出ると言うのが私の信念です。

最後に成年女子の主なる都道府県チームのチーム構成について載せておきます。

岩手県	富士大学9名が主体
宮城県	東北学院大学6名 仙台大学5名
秋田県	秋田銀行8名 他3名・・・今年国体で5位
山形県	山形銀行11名・・・今年国体で優勝
栃木県	白鷗大学10名 他1名・・・今年国体で5位
東京都	実業団荏原ビッキーズ11名・・・今年国体で3位
神奈川県	松蔭大学8名 他3名
山梨県	実業団山梨クインビーズ11名・・・今年国体で準優勝
愛知県	実業団トヨタ紡織11名・・・今年国体で5位
滋賀県	滋賀銀行6名 他5名
兵庫県	武庫川大学6名 他5名
奈良県	奈良産業大学9名 他大学3名
熊本県	実業団鶴屋百貨店8名 他3名・・・今年国体で3位